

スーパーグローバル大学創成支援事業 令和2年度中間評価結果

大学名	早稲田大学
整理番号	A13
構想名	Waseda Ocean構想 ～開放性、多様性、流動性を持つ教育研究ネットワークの構築～

◇スーパーグローバル大学創成支援プログラム委員会における評価

(総括評価) A	これまでの取組を継続することによって、事業目的を達成することが可能と判断される。
<p>(コメント)</p> <p>本構想は、早稲田大学の中長期計画である「Waseda Vision 150」の延長線上に位置付けられており、「地球規模の課題の解決と未来を創造する研究・教育システムの構築」、「教育・研究における徹底的な国際化の推進」、「教員採用システムと大学運営のガバナンスを抜本的に改革」という3つの目標を有するものである。</p> <p>事業が採択された平成26年度から令和元年度末までの6年間で、総長の強力なリーダーシップの下、Waseda Vision 150 推進本部を中心とした体制で本事業を展開し、これまでに目標達成に向けて多くの成果を挙げてきた。</p> <p>本構想の最も優れた特徴は、6つ（平成29年度以降7つ）の卓越した研究分野のモデル拠点に資源を集中投下することにより、大学の教育研究力及び国際的プレゼンス・評価を高めようというユニークな戦略である。この戦略は概ね成功しており、その結果、QS分野別大学ランキングにて、平成28年の世界100位以内3分野から令和2年の10分野へと大きく飛躍した。</p> <p>モデル拠点だけではなく大学全体も徹底した組織改革を行い、教育研究及び組織文化の国際化を着実に進め、国際的競争力を付けている。外国語による授業数は確実に増加しており、外国語のみで卒業できるコース数も令和元年度の目標値を達成した。科目のナンバリング、GPA制度の導入・活用、シラバスの英語化も順調に進んでいる。クォーター制も導入済みでうまく機能している。ガバナンス面に関しても、年俸制や訪問教員制度、JA制度の導入により、海外からの優秀な教員の数を増やすことができ、意思決定機関等へも外国人の参画が見られる。</p> <p>一方で、課題も少なからず残されている。それを端的に物語っているのは、大学独自の達成目標のうち定量的目標が1つも達成されていないことである。高い目標を掲げたことは理解するが、その他にも外国人教職員や全学生に占める外国人留学生の数・割合や日本人学生の留学経験者数が伸び悩んでいる。年俸制やテニユアトラック制は導入されたものの更に活用する余地があり、人事評価制の導入・活用も十分に行われているとは言えないため改善が必要である。</p> <p>最後に、財政支援期間終了後を見据えた自走化について、大学の制度改革は既に内在化しており、自走化は十分に可能と思われる。財政確保については、総長のリーダーシップの下、財政基盤の強化を目指す様々な取組を進めており、着実な成果を上げてきた。結果として、自走化する財源をほぼ確保していると思われる。収入を増やす様々な取組、特に Waseda Endowment の導入を高く評価したい。</p>	